

## 取組状況(1)

## 緊急水源としての地下水活用状況現地調査

能登半島地震発災直後より、井戸(地下水)を代替水源として活用した七尾市を対象に、有識者が3月2日(土)に地下水活用状況現地調査を実施しました。七尾市は、かつて過剰揚水により地盤沈下が発生したため地下水採取を規制しているが、断水が長期間に及ぶ中、市民や事業者が主体的に所有井戸を開放しました。

■調査実施日 令和6年3月2日(土)

■調査メンバー

- ・大阪公立大学現代システム科学域教授 遠藤崇浩
- ・東京大学大学院工学系研究科教授 沖大幹
- ・芝浦工業大学工学部教授 平林由希子
- ・芝浦工業大学工学部特命助教 井出浄
- ・応用地質株式会社取締役副社長 五十嵐崇博
- ・埼玉県環境科学国際センター専門研究員 柿本貴志
- ・埼玉県環境科学国際センター技師 高沢麻里
- ・株式会社建設技術研究所東京本社上下水道部副参事 蛭原雅之
- ・城西大学現代政策学部准教授 飯塚智規
- ・株式会社地圏環境テクノロジー専務取締役 多田和広
- ・公益財団法人リバーフロント研究所業務執行役 内藤正彦
- ・国土交通省水資源部 中込淳、森一史 他 計15名

■現地調査結果

□井戸の利用状況

- ・民家や事業所の多くの井戸が開放され、地域で活用
- ・水質に応じて井戸を使分けて利用(飲用、洗濯、食器洗、トイレ等)
- ・特に給水車からの持ち運びが困難な高齢者等にとって、近所の井戸活用は有効的
- ・水道復旧後も、既存井戸を残すケースが増えるのではとの声もあり

□井戸利用上の課題、留意点

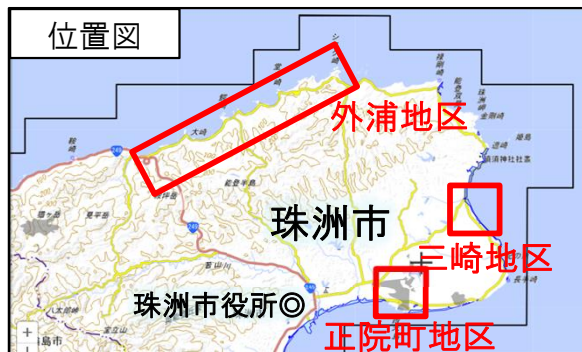
- ・夜間に取水する際の騒音で一部苦情あり
- ・井戸の脇で衣類の洗濯をする等のマナーの問題も散見
- ・かつて地盤沈下を生じた地区のため再発を懸念する声もあり
- ・飲用可否が不明の井戸は自己責任で利用



能登半島地震により甚大な被害を被り、断水が長期間に及んでいる石川県珠洲市の3地区において、代替水源としての井戸(地下水)活用の可能性等について、現地調査を行いました。

調査メンバーは、建設コンサルタンツ協会〔八千代エンジニアリング(株)、(株)建設技術研究所〕、全国地質調査業協会連合会〔(株)ホクコク、能登建設(株)〕、全国さく井協会〔(株)日東〕に所属する会員企業の専門家7名。国土交通省職員も同行。

既設井戸の水量・水質に係る現地調査を踏まえ、代替水源としての適性評価や井戸整備の概略計画等について検討し、珠洲市に報告しました。



■現地調査時期 : 2月1日(木)~15日(木)

■現地調査

- ・地下水位測定
- ・簡易水質(水温、電気伝導率、pH)測定
- ・地元住民・地質調査業者からの聞き取り
- ・吐出能力計測
- ・水質検査のための採水

■代替水源定期制評価・手段検討

■珠洲市への報告



既設井戸現地調査状況



地元住民からの聞き取り



湧水量調査状況

TOPICS

可搬式浄水装置による給水支援〔独立行政法人 水資源機構〕

能登半島地震による被災地域への給水支援として、可搬式浄水装置2台を石川県珠洲市内に派遣して、1月9日(火)から生活用水、12日(金)からは飲用水を毎日提供しています。(3月22日現在)

【可搬式浄水装置の特徴・効果】

- ・河川や海から取水して浄水することが可能であり、飲料水としても利用可能
- ・処理能力は、50m<sup>3</sup>/台/日
- ・珠洲市中心部に近い場所に本装置を活用した給水拠点を設置出来たことにより、浄水の運搬時間の短縮に貢献(最長7時間を20分に短縮)



可搬式浄水装置稼働状況



給水車への補給状況

令和6年能登半島地震でお亡くなりになられた皆様に、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。我が国では全国で水道網が整備され、蛇口をひねれば水が出てくるのが当たり前になっていますが、大規模災害時に断水が発生すると、その常識は根底から覆されます。今次災害では発災直後より井戸を活用した事例もあり、その有効性が改めて注目されつつあります。代替水源活用状況や課題を整理し、地域の防災力向上に資する情報を発信して参りたいと思います。